

< もくじ >	
1. 2019年度連続講座「人生100年時代、あなたはどうか生きる？」 第2回、第3回のお知らせ、および第1回の報告	1
2. 研究会からのお知らせ	2
3. 各研究会の概要報告	3
4. 「大磯コミュニティ・カレッジ」特別企画のご案内（再掲）	5

1. 2019年度連続講座「人生100年時代、あなたはどうか生きる？」、 第2回、第3回のお知らせ、および第1回の報告

シニア社会学会恒例の連続講座は、東京家政学院大学千代田三番町キャンパスで、以下の日時と講師を迎えて開催されています。第1回が終わりあと2回あります。ふるってご参加ください。

男女とも平均寿命が50歳を超えることのなかった日本が、気が付いてみると100歳を超える人が7万人に達するようになりました。長寿時代に備えて、物心両面で準備することは、高齢者にとってのみならず、これから高齢期に向かう人たちにとっても、きわめて重要です。その際、どのような準備をすることが必要なのか、長寿社会日本の新たなモデルを求めて、多角的な検討が求められます。この講座が、皆さまのこれからの人生を設計するうえでお役に立てることを願っております。

<第2回連続講座の概要>

- (1) 日 時：10月19日（土） 14：00～16：00
- (2) 会 場：東京家政学院大学千代田三番町キャンパス 1706教室（第1回と会場が異なりますのでご注意ください）
- (3) 講 師：吉田 太一（遺品整理会社キーパーズ社長・シニア社会学会会員）
- (4) テーマ：もしかして…売れない、貸せない“負動産”を所有していませんか？
人口減少により需要と供給のバランスが逆転し、1991年から一部の地域を除いて、全国的に地価は下がり続け、親の遺した実家が“負動産”となり、子供や孫の負担となっているケースが激増しています。みなさんが所有している不動産は大丈夫ですか？



<第3回連続講座の概要>

- (1) 日 時：11月30日（土） 14：00～16：00
- (2) 会 場：東京家政学院大学千代田三番町キャンパス 1301教室
- (3) 講 師：川村 匡由（武蔵野大学名誉教授・シニア社会学会理事）
- (4) テーマ：終活のウソ／ホント
毎年130万人以上が死亡し、死亡人口が出生人口を上回る「多死社会」を背景に、生前整理や葬儀、お墓の改葬、相続など終活のあり方について、これまでの研究実践や体験、行政書士の有資格者としてお話をさせていただきたい。これから終活を始め方のご参考になることを願っております。



- ※ 各回とも資料代として参加費1,000円を当日会場にて頂きます。(但し、学生は無料です)
- ※ 各回の前月のJAAS Newsにも掲載いたします。HPにも随時掲載します。
- ※ お問い合わせは事務局まで電話で、お申し込みは、FAX・eメールにてお願いします。

<第1回連続講座の報告>

- (1) 日 時：9月21日(土) 14:00~16:00
- (2) 会 場：東京家政学院大学千代田三番町キャンパス 1301教室
- (3) 講 師：上村 協子(東京家政学院大学教授)
- (4) テーマ：家計管理・生活設計は人生100年時代にどう変わる



<報告概要>

最近の国の「金融リテラシー」普及の動きを紹介しながらも、単なる資産拡大のノウハウの追求に陥る落とし穴に注意を促し、人生にとって何のための財産管理であるのかを、「冷たいお金」から「温かいお金」へ転換するという観点から考えるべきことを強調される内容でした。また、貴重な歴史的資料として、日本で系統的な家計簿の付け方を開発された松平友子さんの家計簿とその改良のための書き込みの実物を紹介、日本の「家計簿文化」を再評価され、受講者からも大変好評を得ました。

当日のアンケートの結果から、いくつかのコメントをご紹介します。

- * 今日のお話は息子(一人っ子)に聞かせるお話でしたので、徐々に伝えて参ります。現在は私が財産管理(銀行と相談しながら)をしています。
- * 松平友子さんの家事経済学の貴重な本を見せていただいております。家計簿がその時代の暮らしぶりが見えてくるお金の使い方を学ぶ内容に気づかせてもらえました。私も家計簿をつけていますがこれから工夫して考えてつけていきたいと思いました。
- * 「冷たいお金を温かいお金に」というフレーズが心に残りました。子どもに何を残せるのかを考え直したいと思います。
- * 家計・金融は人生100年時代をしっかりと生きるためにも重要な事項と、改めて認識しました。
- * 上村先生のお話は楽しく、内容も期待通りであった。袖井先生と上村先生のかげあいなど、全体的に楽しいセミナーでした。

2. 研究会からのお知らせ

(1) 第122回「社会保障」研究会開催のお知らせ(再掲)

- 1) 日 時：2019年10月23日(水) 18:00~20:00
- 2) 報告者：田中雅英(東京都高齢者福祉協議会 副会長)
- 3) テーマ：「介護職員確保の課題と対策~次期介護報酬改定に向けて」
- 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室

豊島区東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 8階

- ※ ご質問がございましたら、阿部(旧姓佐藤)または袖井まで
090-4436-6853(阿部)、090-4228-4421(袖井)

(2) 第16回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2019年10月23日(水) 18:00~20:30
- 2) 場 所：内幸町 日本プレスセンター内日本記者クラブ9階ラウンジ
- 3) テーマ：「最近、自分自身がUp-datingしている(更新中!)と感じていること」
- 4) 参加費：500円

- ※ お問い合わせは中村(nakamura@jaas.jp)までお願いいたします。

(3) 第70回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2019年10月24日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室

- 3) テーマ：読活 — 和辻哲郎著『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）
- 4) 発表者：薄井 滋
- 5) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村（ken-sima1941@jcom.home.ne.jp）までお願いいたします。

(4) 第4回「社会情報」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2019年10月28日（月） 15:00～17:00
- 2) 場 所：上野区民館 201号室
台東区池之端1-1-12 2階
<https://www.city.taito.lg.jp/index/shisetsu/hall/kuminkan/kumikan3.html>
- 3) 概 要：参加者（八巻、森）提示の資料に対するディスカッション
- 4) 参加費：400円程度

※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

(5) 第60回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2019年11月20日（水） 18:00～20:00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス39号館6階第7会議室
- 3) 報告者：川村匡由（武蔵野大学名誉教授、シニア社会学会理事）
- 4) テーマ：「防災・減災と地域福祉～社会保障学者としての研究実践を踏まえて～」
- 5) 参加費：当分の間、頂戴しません

※ お問い合わせは、福原（fukuhara@jaas.jp）までお願いいたします。

3. 各研究会の概要報告

(1) 第3回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2019年9月11日（水） 15:00～17:00
- 2) 場 所：上野区民館201室
- 3) 概 要：参加者2名の報告とディスカッション
- 4) <森嵩さんの報告>日経特集記事「データの世紀」の紹介とそこからの考察

データや技術は使い方次第で武器にも凶器にもなる。情報社会の現段階では、急激な技術革新に対して、法整備、使い方（使い手の知恵）、意識・倫理が追いついていない現状にある。技術が凶器にならないためにも、個人（データ利用者でもあり、データ元でもある）、企業（データ利用者）、IT企業（個人と企業を結ぶプラットフォーマー）、国（データ監督者としての役割が望まれる）。

本問題を捉えていくにあたり、「企業」－「プラットフォーマー/国」－「個人」という枠組みが考えられる。あるいは、「データ元（個人）」－「プラットフォーマー」－「データ利用者（個人、企業、国）」、そして第三者的に各々の規制する「データ監督者（法整備）」という枠組みが考えられる。

<齋田さんの報告>「情報社会」で重要と思うテーマについて

GAFAsは、企業規模の大きさ、全世界地域、生産効率の高さなどで圧倒し、かつ有望「ユニコーン企業」は早期に買収してしまうことで、経済的利益が集中し、他の企業の成長が奪われる。また、ビッグデータは大規模組織、権力側に使われ、市民側は情報操作されがちのため、情報の透明性ある公開がなされなければ、民主主義は崩壊の危機に瀕する。

「the four GAFAs 四騎士が創り変えた世界」スコット・ギャロウェイ

（2018、東洋経済新報社）の書籍紹介シートを配布し、GAFAsが世界を席巻したのは、ネットワーク技術とグローバル化の圧倒的な進展/法制度ルール対応遅れ/本能に訴えるブランド構築、などによるという説明を行った。

<ディスカッション>

Facebook のプライバシー侵害、Apple や Amazon の音声データ収集などに関連して、個人情報保護へのジェネレーションギャップがどんな領域にどんな形で存在するか、参加者たちの意見交換があった。また、「情報バンク」の意義や仕組みへの期待と興味、その他にも個人情報個人のものとして、分析を有料化するなどの話が出た。

大きな趨勢として以下の予測が妥当であろうということになった。

データエコノミーは、それがお金を生む限り必然の流れともいえる。リクルートに限らず、私たちが気付かないデータ活用の動きがこれからも出てくるだろう。(森 記)

(2) 第121回「社会保障」研究会報告要旨

- 1) 日 時：2019年9月18日(水) 18:00~20:00
- 2) 報告者：大森正博(お茶の水女子大学教授)
- 3) テーマ：「医療制度における市場、競争の役割について～国際比較の視点」
- 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室

医療技術の進歩、高齢化等の社会の変化に伴って、各国は、効率的かつ公平性の確保された医療制度の構築が求められている。情報の非対称性等の医療サービスの持つ性質により、強制加入を含む社会保険制度あるいは租税方式による財源調達方式を導入せざるを得ないために、効率性、公平性を実現するためには、医療財源の側面だけから考えることは出来ず、医療サービスの需給制度も合わせて、医療制度のあり方を考えなければならないことを明らかにし、制度上の重要な論点を検討し、各国の状況について比較考察を行った。

日本は、社会保険を採用している国々の中でも、早い時期から、強制加入により国民皆保険を実現できていることが特徴的である。国民皆保険にしていること、高齢者の医療需要が若年者より多いことから、若年世代から高齢世代への所得分配を中心に公平性を確保しなければならない。しかし、保険者が分立し、かつ、後期高齢者医療制度に代表されるように、年齢により保険者が分立するという状況は、国際的には特異である。保険が分立していると、所得分配のあり方も複雑にならざるを得ないことを考えると、保険者の統合は日本の医療制度の重要な課題である。また、所得分配の方法として、日本は、保険者間の補助金、国民健康保険、後期高齢者医療制度等、個別の保険者に対するそれぞれ異なる目的を持った補助金を組み合わせているが、「リスク構造調整」を導入することも検討に値する。

医療サービス供給については、効率性の観点から、価格規制は必要であるが、どのような原則で価格規制を行うかは、国によって異なっている。医療制度全体の機能に目配りをして、理論的根拠に基づいた価格規制を行う必要がある。日本の価格規制の特徴は、医療サービス供給者の報酬等の労働費用、病院等の医療施設の建物、医療機器等の資本費用もカバーする形で行われているが、日本以外では、資本費用について、病院・病床の数、医療機器の数の「数量規制」とセットで予算制度の形態で価格規制が行われている。過剰と言われている病床、医療機器を抱える我が国でも、病院・病床、医療機器の予算制度を導入することは一考に値する。

医療サービス需給の効率性を考える上で、病院を中心とする二次医療の患者の受診を調節することは重要であり、GPシステムを導入している国は多い。日本は、選定療養費の大病院の初診料・再診料加算、公的介護保険における「主治医」等、プライマリーケア(一次医療)医の役割を強化してきているが、地域包括ケアシステムの導入も考え合わせると、GPシステムの導入を検討するべきであると考えられる。(大森正博 記)

(3) 第15回 「ライフプロデュース」研究会の報告

- 1) 日 時：2019年9月25日(水) 18:00~20:00
- 2) 場 所：内幸町 日本プレスセンター内日本記者クラブ9階ラウンジ
- 3) テーマ：「居場所がなく孤立した人の見守り方、接し方」

議論に入る前に、先月から研究会に参加願っている、臨床心理士の岡田慶子さんからレクチャーして頂きました。岡田さんは『「ひきこもり」の人達を含め、孤立して居場所のない人全体

に共通する問題の本質は、「生きる意味の喪失」ではないでしょうか。生きる意味を感じることはその人なりの幸せを意味しており、必ずしも社会に出て就労すること、他の人の役に立つことや、賞賛や評価を得ることだけではないように思います」と述べられ、それを皮切りに50～80代の男女参加者10人が討論開始。まず「引きこもりも前段階として『居場所がない人』⇒『引きこもり予備軍』の方々がおられる」との提起に、「他人が思うほど、ご本人は寂しく感じていないというケースも多いのでは」とも。元カウンセラーの立場から「うつ病の方に『頑張る』と励ますことがタブーの様に、『孤立しかかっている人』に、周囲が余計な干渉やアドバイス等をするのも適切ではない。むしろ、相手との一定の距離感を持ちつつ寄り添い、話をしっかり傾聴する(時に共感する)姿勢を取っていくことが大切だろうと思う」と続く。

ここで、「年齢に関係なく突然『ひきこもり』状態になることがあるのでは」と自らの貴重で説得力のある体験談が披露された。突然の病い発症後、治療を受けて社会復帰した後で「自分自身、そういった経験がプラスにもなったと感じた」と吐露、「周囲の方々には、遠くから見ていて欲しい、ニコニコ笑って見守っていて欲しい」には全員が耳を傾けた。

このように発言は活発に続き「児童虐待があった時は、公的機関へつなげていくことが大事」や「男女差もありで、男性の方が社会的挫折感を味わうことが多く、孤立する傾向が強いのでは?」とも。シニアを中心にした多々のボランティア活動に参加・運営経験者からは「高齢者の『自立支援』については、あくまで『場』を作って呼び掛けるまでが重要で、無理やり引っ張り出すまではNG!」との助言にも賛同者多し。

さらに、東日本大震災とく原発災害で東京に避難してきた被災者を発生翌年の2012年春から支援するボランティア活動を現在も継続中の話を紹介しつつ「自分が役立っている場所」＝「居場所」なのでは?と問題提起。これをきっかけに、最後は「居場所」＝「役割」へと様々な角度、視点からの論議にまで盛り上がった。結局、「居場所」とは単に「場所」ではなく、気の置ける話が気軽にできる「友人たち」の存在が大きい—という点でも共鳴・共感が広がった。※ この月例会の詳細は、「ライフプロデュース」研究会のブログでご覧願います。(皆川 記)

(2) 第69回「シニア社会のリテラシー」研究会開催の報告

- 1) 日 時：2019年9月26日(木) 15:00～18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：『多様性と調和』を生きる『私』
- 4) 発表者：濱口 晴彦座長

今回の濱口座長のレクチャーは、9月18日発行のJAAS News 第242号の巻頭言として寄稿されたテーマ『多様性と調和』の中で生きる」をフォローいただく目的で行われた。レクチャーは配付の資料により進められたが、5つの項目によりお話しがあった。1. 多様性を生きる「私」の位置確認—身体とその感覚的把握 2. 「人生すごろく」—上がりは「資源から個人へ」あるいは「個人から資源へ」? 3. 「必然の国から自由の国へ」の途中—A Iは多様性に調和をもたらすか— 4. 「習慣の束」のほころびをどのように繕うか—単純あるいは急性アミノ—という考え方の視点から— 5. さだまさし「人生の贈り物—他に望むものはない—」であり、レクチャーのコンセプトは、「私」を話すことであり、「私」という多面性のきっかけにし、「私」という成り立ちを話すことであること。濱口座長は、早稲田大学に入学した理由は、革命家になろうとしたとも振り返られた。そして、「小異を捨てて大同につく」ということがあるが、これからの時代は「小異を生かして大同につく」である。市民社会を生かして、小異を生かさなければならぬ。そうでなければ、多様性が生きないと述べられた。(島村記)

4. 「大磯コミュニティ・カレッジ」特別企画のご案内(再掲)

濱口副会長が主宰され、当学会が後援する表記のカレッジが、講座50回達成特別企画として、濱口研究会とのジョイントによる「読活」が下記の通り開催されますので、ご案内致します。

- 1) 日 時：2019年12月5日（木） 14：30～16：30
- 2) 会 場：JR大磯駅前のエリザベス・サンダース・ホーム地域交流スペース
- 3) プログラム：第1部 「読活」—吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』
第2部 賛助ピアノ公演
- 4) 第1部の発表者：濱口研究会から、モデレーターとして安田和絃が、発表者として、薄井滋、大下勝巳、土岐啓子の3名が出演。カレッジ側からも3名が出演し、当著書について語り合う。
なお、濱口研究会では、当著書を「21世紀の倫理」研究会（2010年4月16日～2012年2月20日 19回）で取り上げた経緯がある。
- 5) 参加費：1,000円
- 6) 申し込み・問合せ：電話 070-3526-7310（こみゆにてー・パティオかりん：富山氏）
（島村記）

一般社団法人シニア社会学会・事務局（水、および月または金オープン）
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202
電話&FAX：(03) 5778-4728
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：http://www.jaas.jp/